

まちつく3D

—手をつないでつくる3Dマップ—

代表者 五十部聡太郎（工学M2年）
構成員 鹿野義行（工学B4年）北原京（工学B4年）遠藤了（工学B4年）
江藤優馬（工学B2年）藤井翔（工学B2年）

私たちは、5月中旬から随時、構成員を募集してきました。そして7月中旬に構成員が固まり、随時打ち合わせを行い計画を練りました。打ち合わせの結果、8月8日のオープンキャンパスで高校生向けのイベントとして本プロジェクトの紹介も兼ねて、A4サイズで作成した2Dの工学部キャンパスの地図を百数枚用意しそれを配布しました。と同時に、高校生たちと一緒に工学部キャンパスの立体模型を作成することにしました。内容は、当初予定していたものとは少し異なりますが、A1サイズの発泡スチロールを土台として、その上に作成した工学部キャンパスの2D地図を貼り付けます。そして、その地図上の講義棟などの建造物の上に、立体感をつけるため、切り取った発泡スチロールを竹串でつなぎ合わせていきました。つなぎ合わせる発泡スチロールのサイズは、私たち構成員と高校生と一緒にそれぞれの建造物の場所へ一緒に行き、幅、奥行きは歩測（歩いた人の歩幅と歩数から距離を推定）や手をつないで測り、高さは建造物の側に、あらかじめ身長分かっている人が立ち、定規などでその人のおよそ何倍かを目分量で読み、作成しました。実際の様子を下に示します。



地図作成の様子



作成風景



実際に作成したキャンパス模型

実際に作成した 3D 模型は少しいびつな物になり、実際の構造物同士の高さ関係とは異なっている気がしましたが、そこが本プロジェクトの良いところだと思っています。このオープンキャンパスで作成した地図を基に私たちが 3D の地図を完成させました。具体的な測量器具を用いずに行ったので、人と人のつながりの大切さと、昔の人たちの偉大さを実感できたプロジェクトとなりました。



まちつく 3D のメンバー